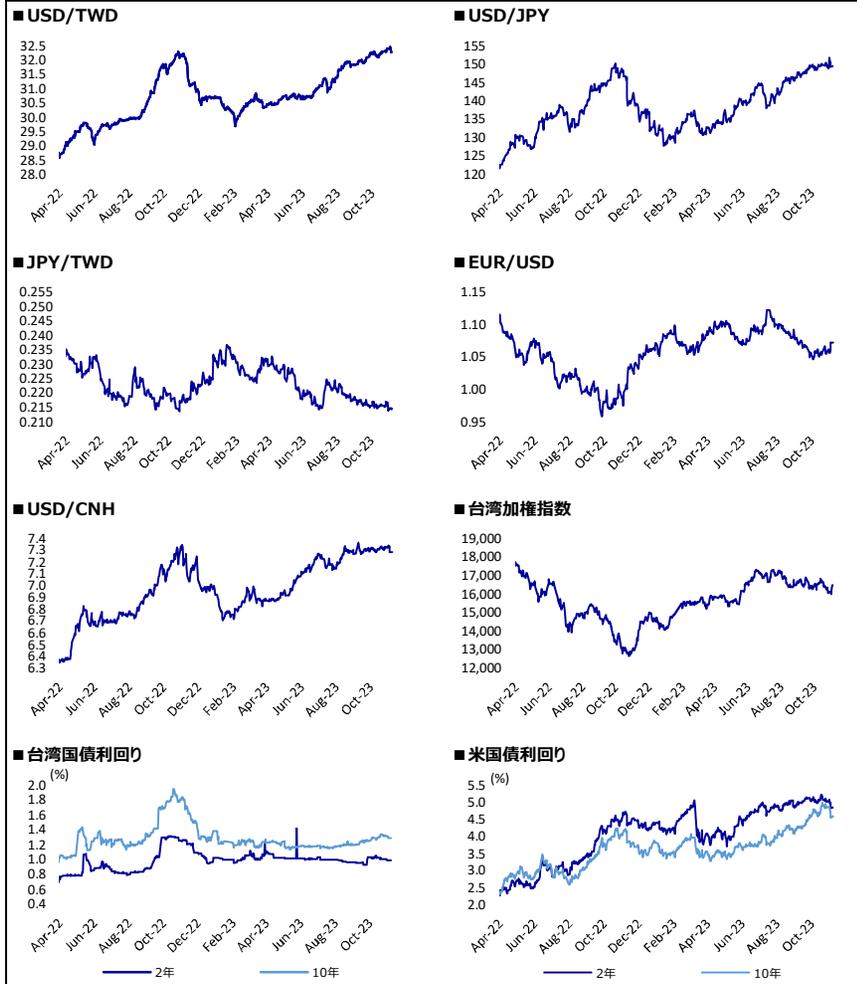


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇後下落。週初10/30は32.440でオープン後、FOMCを控え米金利が方向感なく推移する中、小動きな展開となり、32.44を挟み揉み合い。10/31は米金利上昇が一服したことを背景にグローバルにドルが上値重く推移する中、ギャップダウンして始まるも、海外投資家による台湾株売りが大きく入り、台湾ドル売りが優勢となり32.40台前半で揉み合いとなった。11/1は米金利が再度上昇に転じていたことや、海外投資家による台湾株売りが優勢となっていたことから、一時32.495まで上昇した。11/2は前日のFOMCを受け米金利上げサイクルの終了が意識され、米金利が大幅に低下する中、ドル売りが優勢に。海外投資家による台湾株買いは後押しとなり、ドル台湾ドルは終日上値重く推移し、32.361まで下落した。11/3はFOMC後の米金利の低下が継続する中、ドル売りが優勢な展開が継続。米金利の低下を好感し、海外投資家による台湾株買いの圧力も強まり、ドル台湾ドルは下落が継続。最終的には前週比0.4%ドル安台湾ドル高の32.303で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は51.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇後下落。週初10/30は149.50でオープン。海外時間に米金利が上昇するとドル買い圧力が強まる展開。しかし150円の節目を目前に、日銀金融政策決定会合を控えて上値重く推移。その後日本経済新聞より「日銀、31日に金利操作を再修正へ」との報道がなされると、日銀による金融政策転換への期待感の高まりから円買い優勢となり、一時148.81まで下落。10/31は日銀よりYCCの上限柔軟化と物価見通し引き上げがアナウンスされたが、市場予想対比では微修正に過ぎないとの見方が多く、円売りが加速。海外時間には米第三四半期雇用コスト指数が市場予想を上回ったことで米金利上昇が加速し、一時151.74円の高値を付けた。11/1は小動きでのスタートとなったが、海外時間のFOMCを受けて利上げサイクル終了が意識される結果となると、米金利が低下に転じ、ドル売り優勢となり150円台後半で推移。11/2はFOMC後の米金利の低下が継続する中、ドル売り優勢な展開が継続し、150円台前半で揉み合い。11/3は東京休場後、海外時間に米10月雇用統計が発表されると、市場予想対比弱い結果となっていたことが確認され、ドル売りが加速する展開に。最終的には前週比0.2%ドル安円高の149.37で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.000-32.200
今週は下落を見込む。FOMCを受け米金利上げサイクルの終了が意識される中、米金利低下圧力がかかりやすく、台湾株買いフローも後押しとなり、ドル台湾ドルは下落に転じるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：148.50-150.50
今週は下落を見込む。中銀会合を終え、米金利は低下圧力がかかりやすい一方、円金利は金利上昇を試す展開となり、日米金利差が縮小する場合、ドル円は下落に転じるであろう。

今週の予定

11/6 (MON)	
11/7 (TUE)	台湾10月CPI、台湾10月貿易収支
11/8 (WED)	
11/9 (THU)	
11/10 (FRI)	米11月ミシガン消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。